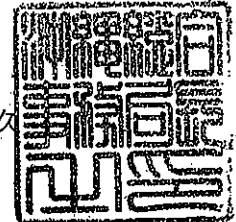


府開港計第11号  
土港第1009号  
平成18年 3月28日

沖縄県知事  
稲嶺 恵一 殿

内閣府沖縄総合事務局長  
竹林 義久



沖縄県知事

稲嶺 恵一



「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）」への対応について（報告）

平成17年12月7日付府開港計第75号及び土港第586号で報告した標記の件について、追加調査結果を取りまとめましたので別添の通り報告いたします。

「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）」への対応について

1. 事業者の考え方とその対応
2. 事業者が生息を確認した種の希少性カテゴリー
3. 事業者が生息を確認した種の確認調査・確認時期

別紙：環境監視委員会における『「改訂・絶滅のおそれのある野生生物（動物編）」への対応について』の概要

1. 事業者の考え方とその対応

イ) 新たに確認された種について

沖縄県により発行された「改訂・絶滅のおそれのある野生生物（動物編）」（平成17年9月公表）に基づき、埋立免許取得後から平成16年度までに事業者が実施してきた調査結果から、生息を確認した103種（魚類3種、甲殻類10種、貝類90種）については、既に平成17年12月に県へ報告した。

その後実施したジャングサマテガイ確認調査等により、新たに10種（甲殻類1種、貝類9種）の生息を確認した。

よって、これまでに『改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）』に記載されている種で、事業者が生息を確認しているものは113種（魚類3種、甲殻類11種、貝類99種）である。

新たに報告する10種について、希少性のカテゴリーや、生息を確認した調査について以下の表に示す。

新たに報告した10種

分類群・種和名	希少性のカテゴリー			生息を確認した調査			
	沖縄県		環境省	調査名	出現状況		
	改訂版	初版			埋立浚渫 予定地内	埋立浚渫 予定地外	
甲殻類	1 シオマネキ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧種	準絶滅危惧	・比屋根湿地の汽水生物等の調査 ・干潟生物生息状況調査 (オキナワワラカニ)		○
貝類	1 ジャングサマテガイ	絶滅危惧ⅠB類			・ジャングサマテガイ確認調査		○
	2 ヌバタママクラ	絶滅危惧ⅠB類			・藻場内生物調査	○	○
	3 ウスカガミ	絶滅危惧Ⅱ類			・ジャングサマテガイ確認調査	○	○
	4 ホソズングリアゲマキガイ	絶滅危惧Ⅱ類			・ジャングサマテガイ確認調査	○	○
	5 Gari sp.	絶滅危惧Ⅱ類			・ジャングサマテガイ確認調査	○	○
	6 イシワリマクラ	絶滅危惧Ⅱ類			・ジャングサマテガイ確認調査		○
	7 ゴイシザラ	準絶滅危惧			・ジャングサマテガイ確認調査 ・藻場内生物調査 ・オホロヅキ・スイショウガイ確認調査	○	○
	8 リュウキウサラガイ	準絶滅危惧			・ジャングサマテガイ確認調査		○
	9 ミツカドカニモリ	準絶滅危惧			・干潟監視調査		○
全		10	種				

今回報告する10種のうち、「改訂・絶滅のおそれのある野生生物（動物編）」において絶滅危惧ⅠA類に指定されるシオマネキが新たに確認された。このシオマネキについては、生息確認位置はすべて埋立予定地外であること、多くの個体の生息が確認されたのは比屋根湿地内であることから、埋立による影響は小さいと考えられるが、引き続き、埋立地周辺の環境を監視していくこととする。

なお、比屋根湿地の整備にあたっては、中城湾港泡瀬地区環境保全・創造検討委員会（担当部会は比屋根湿地・泡瀬地区海岸整備専門部会）において、専門家の指導・助言に基づき、シオマネキの生息環境の維持に配慮した整備方法等も含め、今後検討することとする。

#### ロ) 専門家の意見について

「改訂・絶滅のおそれのある野生生物（動物編）」の対応については、平成18年3月7日に開催された中城湾港泡瀬地区環境監視委員会に、これまでの対応とあわせ、事業者の今後の対応方針について報告を行い、一部委員より意見が出された。これらの意見も含め、環境監視委員会における『「改訂・絶滅のおそれのある野生生物（動物編）」への対応について』の概要を別紙のとおり報告する。

#### ハ) 事業者の考え方

事業者としては、事業の実施にあたって環境影響評価書を作成し、埋立予定地内の環境は喪失することになるが、埋立予定地以外の環境に対して極力工事の影響を少なくし、埋立予定地以外の環境を保全していくものと考えている。よって今後も、これまで行ってきた干潟生物生息監視調査などの各種調査を通じてモニタリングを継続するとともに、埋立予定地以外の周辺環境の保全に努めていくこととする。

## 2. 事業者が生息を確認した種の希少性カテゴリ

事業者が生息を確認した「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）」に記載されている113種（魚類・甲殻類・貝類）について、「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）」に記載される希少性のカテゴリに基づいて取りまとめた表を以下に示す。

事業者が生息を確認した種の希少性カテゴリ（1/3）

分類群・種和名	沖縄県		環境省	環境区分		平成17年12月 県へ報告済みの種	
	改訂版	初版		大区分	小区分		
魚類	1 トカゲハゼ	絶滅危惧IA類	絶滅危惧種	絶滅危惧IA類	潮間帯	泥質域	○
	2 トビハゼ	絶滅危惧IB類	希少種	絶滅のおそれのある地域個体群(沖縄島)	汽水域	マングローブ域	○
	3 マサゴハゼ	絶滅危惧IB類		絶滅のおそれのある地域個体群(沖縄島)	汽水域	マングローブ域	○
甲殻類	1 シオマネキ	絶滅危惧IA類	絶滅危惧種	準絶滅危惧	汽水域	マングローブ域	
	2 アマミマメコブシガニ	絶滅危惧II類	希少種	情報不足	潮間帯	泥質域	○
	3 オキナワヤワラガニ	絶滅危惧II類	希少種		潮間帯	砂泥域～軽石域	○
	4 トゲアシヒライソガニモドキ	絶滅危惧II類	希少種		汽水域	マングローブ域	○
	5 タイワンヒメオサガニ	準絶滅危惧	希少種		汽水域	マングローブ域	○
	6 ルリマダラシオマネキ	準絶滅危惧	希少種		汽水域	マングローブ域	○
	7 ヒラモクスガニ	準絶滅危惧	希少種	情報不足	潮間帯	砂礫域	○
	8 アゴヒロカワガニ	準絶滅危惧	希少種		汽水域	マングローブ域	○
	9 スベスベテナガエビ	準絶滅危惧			汽水域	マングローブ域	○
	10 テゴイワガニ	準絶滅危惧			汽水域	マングローブ域	○
	11 ミゾテアシハラガニ	準絶滅危惧	希少種		汽水域	マングローブ域	○

事業者が生息を確認した種の希少性カテゴリー (2/3)

分類群・種和名	沖縄県		環境省	環境区分		平成17年12月 県へ報告済みの種
	改訂版	初版		大区分	小区分	
1 コハクオカミミガイ	絶滅危惧ⅠB類			汽水域	マングローブ域	○
2 ウチワガイ	絶滅危惧ⅠB類			海藻藻場	海藻藻場内	○
3 ハートガイ	絶滅危惧ⅠB類			海藻藻場	海藻藻場内	○
4 トガリユウシオガイ	絶滅危惧ⅠB類			潮間帯	泥質域	○
5 ニッコウガイ	絶滅危惧ⅠB類			潮間帯	小型海藻藻場域	○
6 ハナグモリ	絶滅危惧ⅠB類			海藻藻場	海藻藻場内	○
7 リュウキュウアサリ	絶滅危惧ⅠB類			潮間帯	砂泥域～転石域	○
8 シラオガイ	絶滅危惧ⅠB類			海藻藻場	海藻藻場内	○
9 オキシジミ	絶滅危惧ⅠB類			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
10 スグカワニナ	絶滅危惧ⅠB類			汽水域	マングローブ域	○
11 ジャングサマテガイ	絶滅危惧ⅠB類			潮間帯	砂泥域～転石域	○
12 スバタマクラ	絶滅危惧ⅠB類			汽水域	マングローブ域	○
13 ネコガイ	絶滅危惧Ⅱ類			海藻藻場	海藻藻場内	○
14 ヒメオリレムシロ	絶滅危惧Ⅱ類			潮間帯	小型海藻藻場域	○
15 ミノムシガイ	絶滅危惧Ⅱ類			潮間帯	砂泥域	○
16 ハボウキガイ	絶滅危惧Ⅱ類			海藻藻場	海藻藻場内	○
17 ユキミノガイ(オオユキミノ)	絶滅危惧Ⅱ類			潮間帯	砂泥域	○
18 カブラツキガイ	絶滅危惧Ⅱ類			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
19 カゴガイ	絶滅危惧Ⅱ類			潮間帯	砂泥域	○
20 カワラガイ	絶滅危惧Ⅱ類			海藻藻場	海藻藻場内	○
21 リュウキュウアリソガイ	絶滅危惧Ⅱ類			潮間帯	砂泥域	○
22 トンガリベニガイ	絶滅危惧Ⅱ類			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
23 ダイミヨウガイ	絶滅危惧Ⅱ類			海藻藻場	海藻藻場内	○
24 アマサギガイ	絶滅危惧Ⅱ類			海藻藻場	海藻藻場内	○
25 ヘラサギガイ	絶滅危惧Ⅱ類			潮間帯	砂泥域～転石域	○
26 ヒラセクラ	絶滅危惧Ⅱ類			潮間帯	砂泥域～転石域	○
27 ヒラセザクラ	絶滅危惧Ⅱ類			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
28 オイノカガミ	絶滅危惧Ⅱ類			海藻藻場	海藻藻場内	○
29 コツツガイ	絶滅危惧Ⅱ類			潮間帯	砂泥域	○
30 オウトウハマシノミガイ	絶滅危惧Ⅱ類			汽水域	マングローブ域	○
31 ウスカガミ	絶滅危惧Ⅱ類			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
32 ホソズングリアゲマキガイ	絶滅危惧Ⅱ類			潮間帯	砂泥域	○
33 <i>Gari</i> sp.	絶滅危惧Ⅱ類			海藻藻場	海藻藻場内	○
34 イシフリマクラ	絶滅危惧Ⅱ類			潮間帯	砂泥域	○
35 ヤジリスカシガイ	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場内	○
36 シマカノコ	準絶滅危惧			汽水域	マングローブ域	○
37 クサイロカノコ	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場内	○
38 コゲツノブエ	準絶滅危惧			潮間帯	泥質域	○
39 カヤノミカニモリ	準絶滅危惧			潮間帯	砂泥域～転石域	○
40 イロタマキビ	準絶滅危惧			汽水域	マングローブ域	○
41 ヘナタリ	準絶滅危惧			潮間帯	泥質域	○
42 カワアイ	準絶滅危惧			潮間帯	砂泥域～転石域	○
43 イボウミニナ	準絶滅危惧			汽水域	マングローブ域	○
				潮間帯	泥質域	○
					砂泥域～転石域	○
					砂泥域	○

貝類

事業者が生息を確認した種の希少性カテゴリー (3/3)

分類群・種和名	沖縄県		環境省	環境区分		平成17年12月 県へ報告済みの種
	改訂版	初版		大区分	小区分	
44 オハグロガイ	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場内	○
45 アラゴマフダマ	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
46 コガンゼキ	準絶滅危惧			潮間帯	砂礫域	○
47 カニノテムシロ	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
48 ツヤイモ	準絶滅危惧			潮間帯	砂礫域	○
49 オオシイノミクテキレ	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
50 ドロアワモチ	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
51 リュウキュウサルボウ	準絶滅危惧			汽水域	マングローブ域	○
52 ワシノハガイ	準絶滅危惧			潮間帯	泥質域	○
53 ソメワケグリ	準絶滅危惧			潮間帯	砂礫域	○
54 ホソスジヒバリガイ	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
55 サザナミマクラ	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
56 ウロコガイ	準絶滅危惧			潮間帯	砂泥域～転石域	○
57 ウラキツキガイ	準絶滅危惧			潮間帯	砂礫域	○
58 テヂミウメノハナ	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
59 オキナワヒシガイ	準絶滅危惧			潮間帯	砂礫域	○
60 エマイボタン	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場内	○
61 リュウキュウアオイ	準絶滅危惧			潮間帯	砂礫域	○
62 イレズミザルガイ	準絶滅危惧			海藻藻場	小型海藻藻場域	○
63 ユキガイ	準絶滅危惧			潮間帯	砂礫域	○
64 コニコウガイ	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
65 ミガキヒメザラ	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
66 イチヨウシラトリ	準絶滅危惧			潮間帯	砂泥域～転石域	○
67 トゲウネガイ	準絶滅危惧			潮間帯	海藻藻場内	○
68 ハスメザクラ	準絶滅危惧			潮間帯	砂礫域	○
69 ヒメニコウガイ	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
70 ゴイシザラ	準絶滅危惧			潮間帯	海藻藻場内	○
71 マスオガイ	準絶滅危惧			汽水域	マングローブ域	○
72 ハスメヨシガイ	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
73 シレナシジミ	準絶滅危惧			汽水域	マングローブ域	○
74 ヒメリュウキュウアサリ	準絶滅危惧			潮間帯	砂礫域	○
75 オミナエシハマグリ	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場内	○
76 ユウカゲハマグリ	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
77 イオウハマグリ	準絶滅危惧			潮間帯	砂泥域～転石域	○
78 ヤエヤマダレ	準絶滅危惧			潮間帯	砂礫域	○
79 オトゲウネガイ	準絶滅危惧			潮間帯	砂泥域～転石域	○
80 クダボラ	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場砂地	○
81 サラサダマ	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場砂地	○
82 スダレハマグリ	準絶滅危惧			潮間帯	砂泥域～転石域	○
83 ヨウラクレインシガイダマシ	準絶滅危惧			潮間帯	砂礫域	○
84 オオアシヤガイ	準絶滅危惧			潮間帯	砂礫域	○
85 ウミギク	準絶滅危惧			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
86 タマキビ	準絶滅危惧			岩礁帯	岩・礫域	○
87 クログチ	準絶滅危惧			潮間帯	砂泥域～転石域	○
88 マンガルトツボ	準絶滅危惧			潮間帯	砂泥域～転石域	○
89 リュウキュウサラガイ	準絶滅危惧			汽水域	マングローブ域	○
90 ミツカドカニモリ	準絶滅危惧			潮間帯	砂礫域	○
91 ニライカナイゴウナ	情報不足			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
92 ヤマホトギス	情報不足			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
93 フイリピンハナヒラガイ	情報不足			潮間帯	砂礫域	○
94 オサガニヤドリガイ	情報不足			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
95 ウネイチヨウシラトリ	情報不足			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
96 テリメンカノアサリ	情報不足			潮間帯	砂礫域	○
97 トモシラオガイ	情報不足			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
98 フキアゲアサリ	情報不足			海藻藻場	海藻藻場内砂地	○
99 オウギカノアサリ	情報不足			海藻藻場	海藻藻場砂地	○
全		113	種			103

貝類

### 3. 事業者が生息を確認した種の確認調査・確認時期

事業者が生息を確認した「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）」に記載される113種（魚類・甲殻類・貝類）について、種の存在を確認した調査件名及び調査地点について示す。

#### 事業者が生息を確認した種の確認調査・確認時期（魚類）

No.	調査年度	インベントリー調査 <sup>(*)1</sup>		比屋根湿地の汽水生物等調査 <sup>(*)2</sup>							(*)3	トカゲハゼ生息状況等監視調査 <sup>(*)4</sup>						
		H11	H12	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H17		H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
1	絶滅危惧ⅠA類 トカゲハゼ		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	
2	絶滅危惧ⅠB類 トビハゼ		○	○	○	○	○	○	○	○								
3	マサコハゼ		○						○									

- (\*)1: 平成11年度 中城湾港海草類詳細調査  
平成12年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その3)
  - (\*)2: 平成12年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)  
平成13年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査  
平成14年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)  
平成15年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)  
平成16年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)  
平成16年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その8)  
平成17年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)  
平成17年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その5)
  - (\*)3: 平成17年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)  
平成17年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その5)
  - (\*)4: 中城湾港マリン・タウン・プロジェクト生物調査委託業務（沖縄県）
- 3. 干潟生物詳細調査
  - 3. 比屋根湿地の汽水生物等調査 2)魚介類及び甲殻類生息状況調査
  - 4. 比屋根湿地調査 4.2魚介類及び甲殻類の生息調査
  - 4. 比屋根湿地調査 4.2魚介類及び甲殻類の生息調査
  - 2.3比屋根湿地調査 2.3.2湿地の汽水生物等調査
  - 2.2比屋根湿地調査 2.2.2湿地の汽水生物等調査
  - 3. 比屋根湿地調査 3-2. 比屋根湿地の汽水生物等の調査
  - 2.2. 比屋根湿地調査 2.2.2. 比屋根湿地の汽水生物等の調査
  - とりまとめ中
  - 2.1. 陸生・海浜動物調査 2.1.3干潟生物生息監視調査
  - とりまとめ中

#### 事業者が生息を確認した種の確認調査・確認時期（甲殻類）

No.	調査年度	干潟生物生息監視調査 <sup>(*)1</sup>						比屋根湿地の汽水生物等調査 <sup>(*)2</sup>						湿地の汽水生物等調査 <sup>(*)3</sup>	(*)4	
		H12	H13	H14	H15	H16	H17	H12	H13	H14	H15	H16	H17			H15
1	絶滅危惧ⅠA類 シマネキ															
2	絶滅危惧Ⅱ類 アマミマコフシガニ						○							○		○
3	オキナワワラガニ				○	○	○						○	○	○	○
4	トクアシライガニモドキ								○	○				○		
5	準絶滅危惧 タウラシガニ													○		
6	ルリマダラシオマネキ	○		○						○				○		○
7	ヒラモクスガニ								○	○	○	○	○	○	○	○
8	アコヒコウガニ								○							
9	スハスハテガエビ									○						
10	チヨウガニ									○						
11	シメジアンハラガニ											○	○	○		

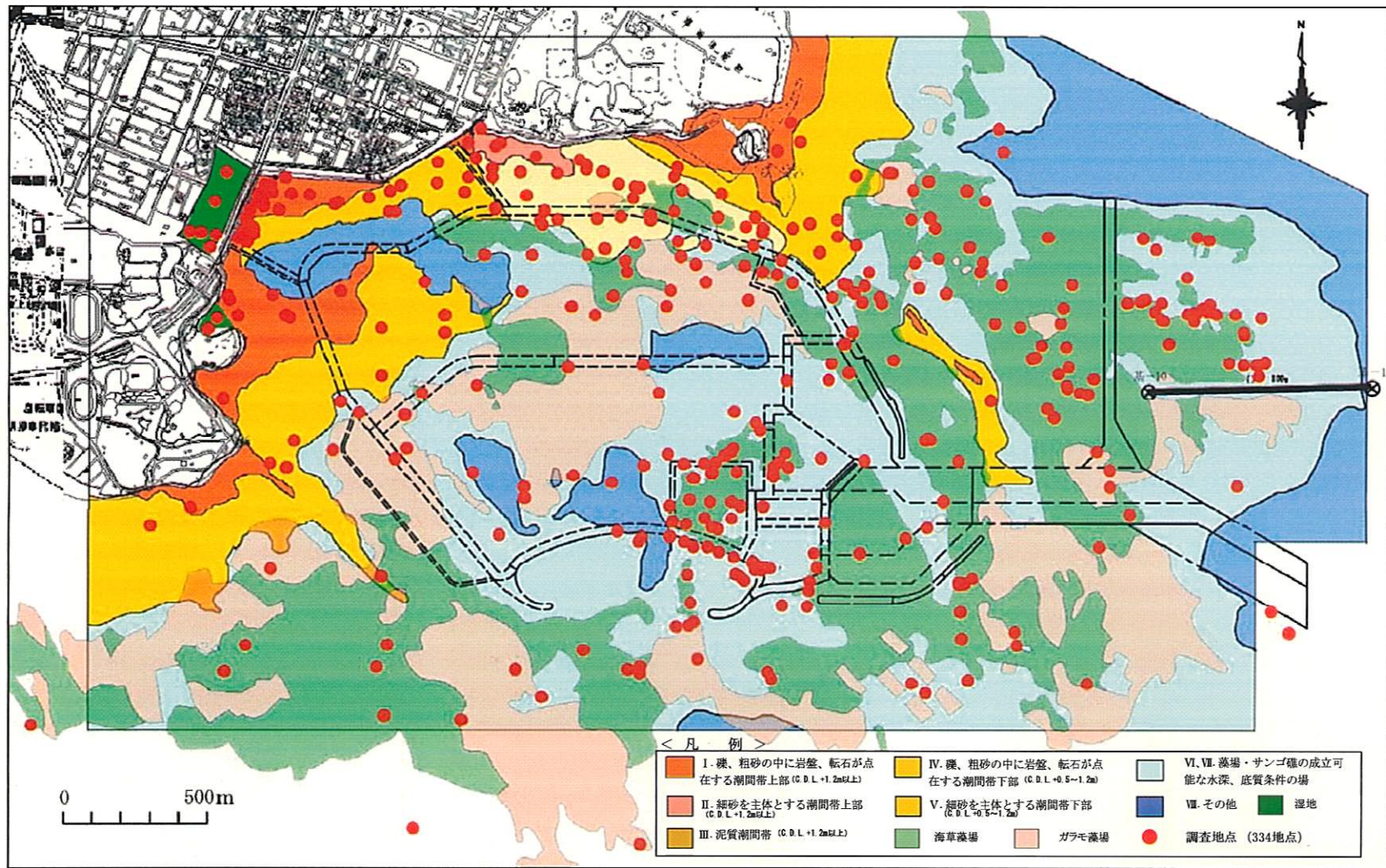
- (\*)1: 平成12年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その3)  
平成13年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)  
平成14年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査  
平成15年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)  
平成16年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)  
平成16年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その8)  
平成17年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)  
平成17年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その5)
  - (\*)2: 平成12年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)  
平成13年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査  
平成14年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)  
平成15年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)  
平成16年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)  
平成16年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その8)  
平成17年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)  
平成17年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その5)
  - (\*)3: 平成15年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)
  - (\*)4: 平成17年度 中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)
- 2. 干潟生物生息監視調査
  - 2. 干潟生物生息監視調査
  - 2. 干潟生物生息監視調査
  - 2.2陸生・海浜動物調査 2.2.3干潟生物生息監視調査
  - 2.1陸生・海浜動物調査 2.1.3干潟生物生息監視調査
  - 2. 陸生・海浜動物調査 2-5.干潟生物生息監視調査
  - 2.1. 陸生・海浜動物調査 2.1.3干潟生物生息監視調査
  - とりまとめ中
  - 3.比屋根湿地の汽水生物等調査 2)魚介類及び甲殻類生息状況調査
  - 4.比屋根湿地調査 4.2魚介類及び甲殻類の生息調査
  - 4.比屋根湿地調査 4.2魚介類及び甲殻類の生息調査
  - 2.3比屋根湿地調査 2.3.2湿地の汽水生物等調査
  - 2.2比屋根湿地調査 2.2.2湿地の汽水生物等調査
  - 3. 比屋根湿地調査 3-2. 比屋根湿地の汽水生物等の調査
  - 2.2. 比屋根湿地調査 2.2.2. 比屋根湿地の汽水生物等の調査
  - とりまとめ中
  - 2.3比屋根湿地調査 2.3.2湿地の汽水生物等調査
  - 2.1. 陸生・海浜動物調査 2.1.4干潟生物生息監視調査(オキナワワラガニ)







貴重種の生息に関する情報です。取扱には注意してください。



調査地点図 (平成11年度～平成17年度12月調査まで) ● 調査地点(334地点)

※この図で示した区域の外側にも調査地点があり、その地点を含めると417地点になります。

## 環境監視委員会における『「改訂・絶滅のおそれのある野生生物 (動物編)」への対応について』の概要(抜粋)

### ■ 事業者の説明

- ・埋立免許の取得に当たっては、埋立予定地内の環境は喪失することになるが、埋立予定地以外の環境に対して極力工事の影響を少なくし、埋立予定地以外の環境を保全していくことが事業者の考え方であること。
- ・事業者において確認された種のほとんどが埋立予定地以外にも広く生息が確認されていること。
- ・委員会開催時において事業者が生息を確認していた103種のうち、埋立予定地内だけにのみ確認されているのは貝類6種であるが、その種が生息すると考えられる環境は埋立予定地以外にも広く分布していること、また、カテゴリー区分でも絶滅危惧種Ⅱ類以下のカテゴリーであり、ただちに絶滅の危機に瀕している区分ではないこと。
- ・以上の理由から、事業者の今後の対応としては工事の影響を極力排除し、埋立予定地以外の周辺環境を保全していくことで希少動物の保全に努めていくことが重要。

### ■ 委員の意見とそれに対する事業者の回答

委員会における議論	
委員意見	事業者回答
中城湾港全体を見据えた対応をすべきではないか。	沖縄県において、中城湾港全体の保全計画を考える「中城湾港港湾環境保全計画」策定のための検討委員会を設置しており、昨年度から議論を進めている。
今回改訂された「改訂・絶滅のおそれのある野生生物(動物編)」により、希少種が多く存在することが確認されたので、再度よく調査をし、アセスの評価を見直す必要がある。	事業者としては、極めて希少性の高い種については環境保全措置の中の代償措置をとることにしており、その他の種については回避、低減という保全措置をとっているとする環境影響評価時の考え方で今後も対応可能と考えている。